

令和元年度

地区陸上・県秋季陸上に関するアンケート

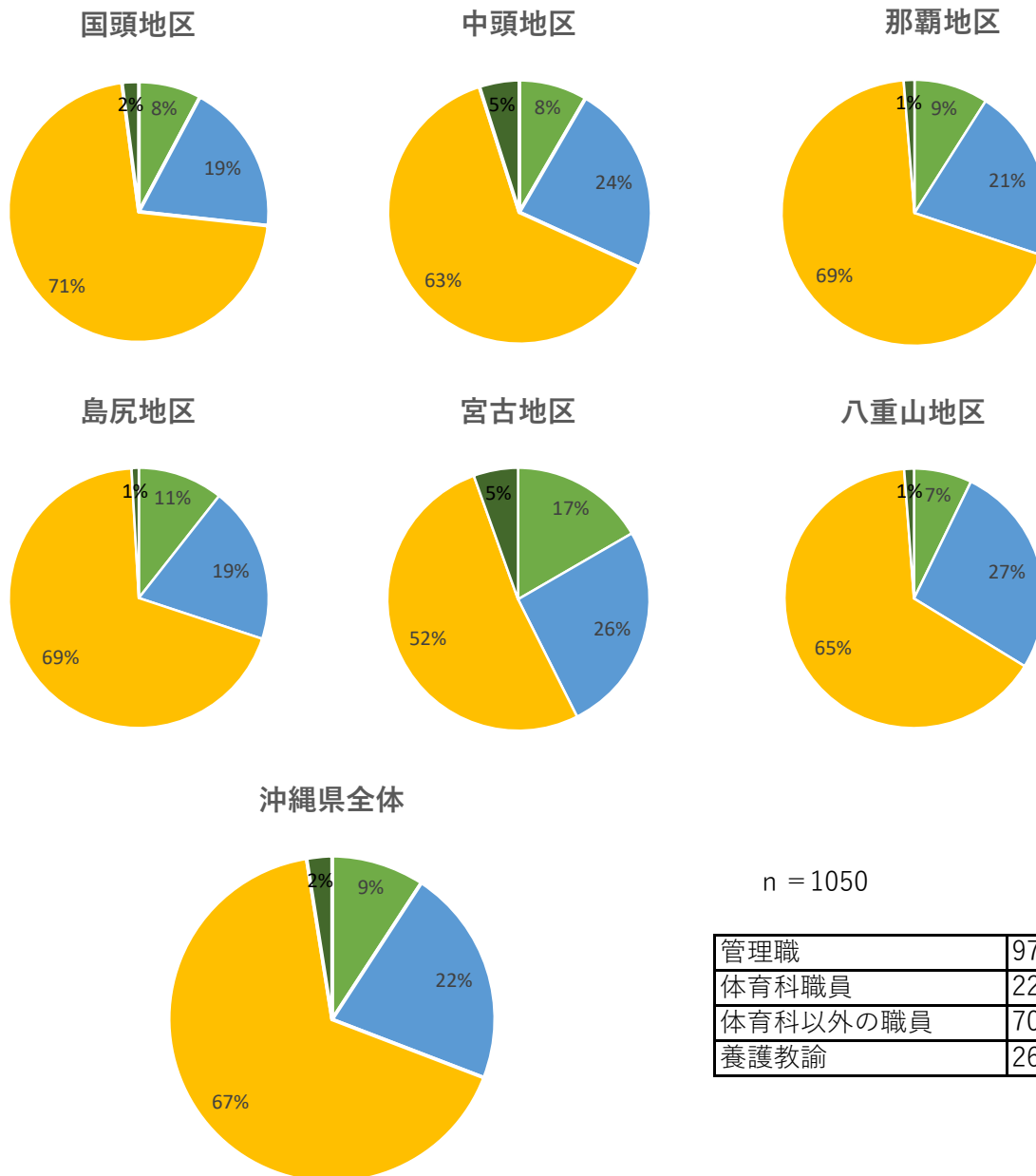


沖縄県中学校体育連盟調査研究部

令和元年度県中体連調査研究部  
地区陸上・県秋季陸上に関するアンケートまとめ

1、あなたの役職を教えてください

管理職 体育科職員 体育以外 養護教諭

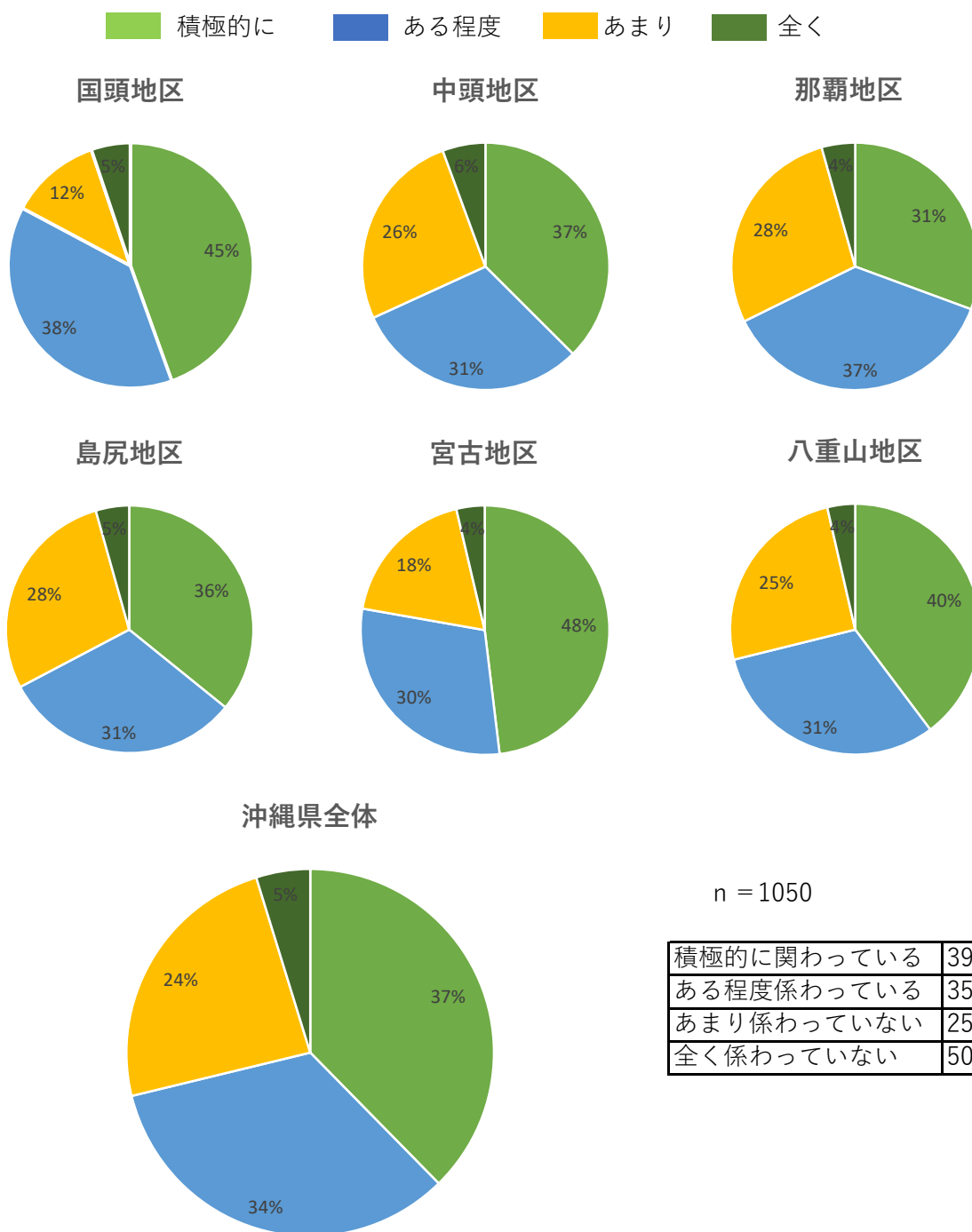


※令和元年度学校一覧【中学校】より県内中学校数（156校）教職員数（3,505人）

【結果・考察】

- 管理職・養護教諭も含め1,050人から多くの回答をいただいた。
- 体育科以外の職員からも様々な回答がいただいた貴重なアンケートとなった。

## 2、陸上の取り組みへの関わりについて



### 【結果・考察】

○「積極的に」「ある程度関わっている」と回答している職員が71%であった。

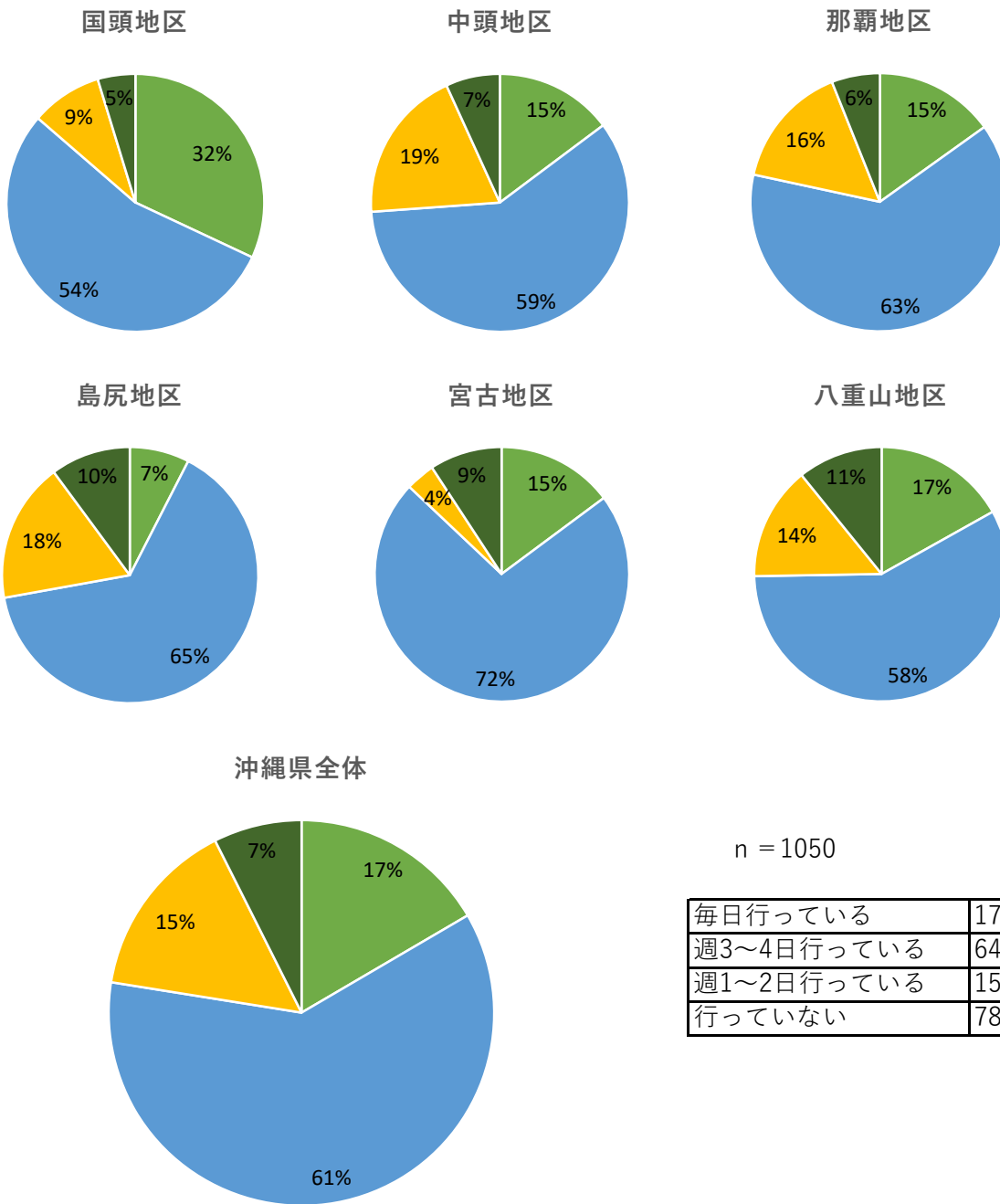
○「あまり」「全く関わっていない」と回答している職員が29%であった。

※各地区とも「学校全体の取り組み」として実施し、多くの先生が何らかの形で関わりを持っている。

しかし、職員間で陸上に対する関わり方や考え方、体調面、家庭の状況等に差があり、このことが一部の職員に負担がきている要因の1つではないかと考えられる。

### 3、夏季休業中の平日練習について

■ 毎日   
 ■ 週3～4日   
 ■ 週1～2日   
 ■ 行っていない



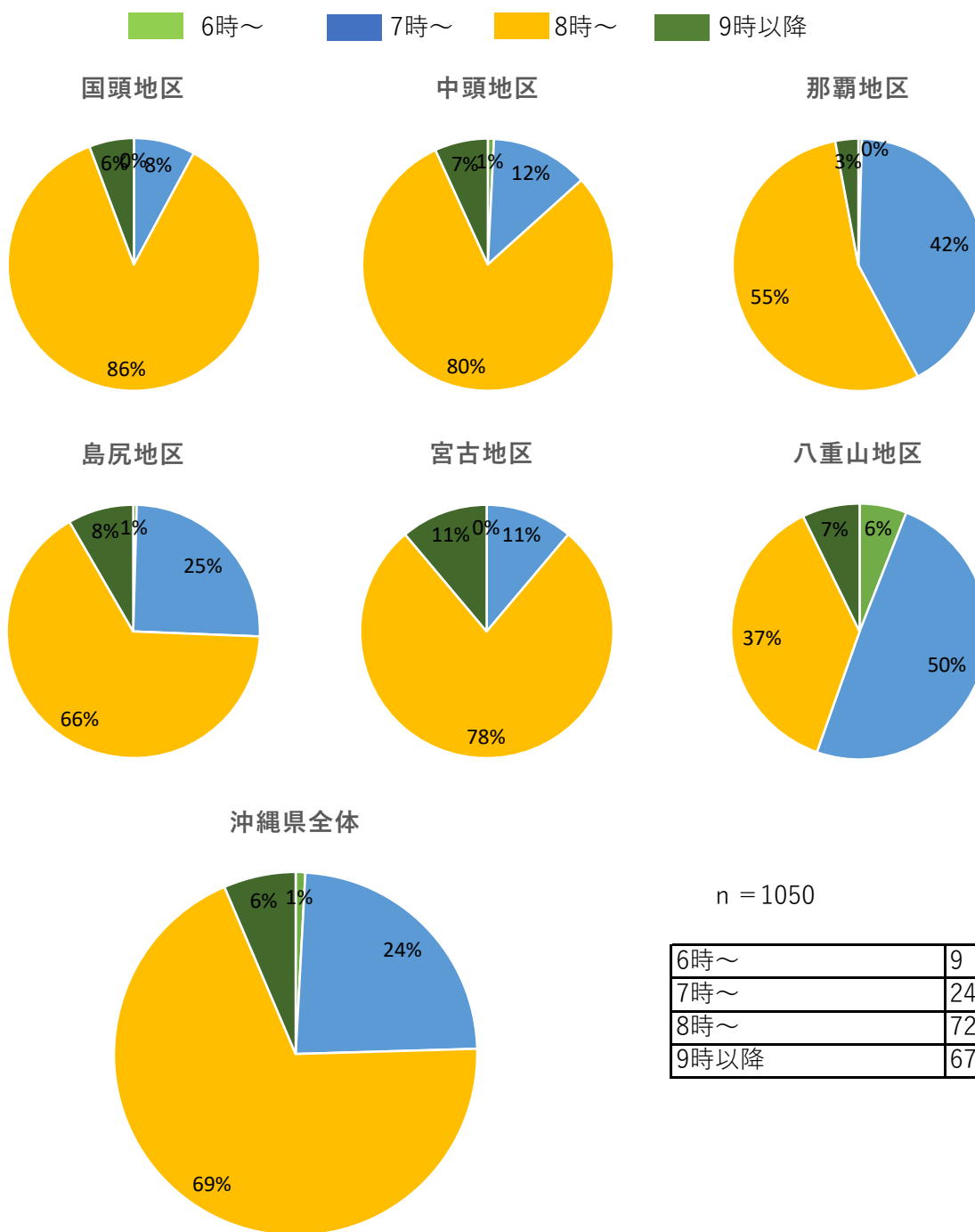
n = 1050

毎日行っている	174
週3～4日行っている	640
週1～2日行っている	158
行っていない	78

#### 【結果・考察】

- 全体の93%の学校が夏季休業中から陸上練習を開始し、夏季休業後からの練習開始が7%であった。
- 夏季休業中の平日練習は「毎日行っている」17%、「週3～4日」61%、「週1～2日」15%であった。76%の学校が平日に休養日や1・2年生を部活動に戻す日を決めて実施している。
- ※夏季休業中の練習の取り組み方も、各学校で違いが見られる。各地区理事会や常任理事会等で適切な平日の練習日を設定していく必要があるのではと考えられる。

#### 4、夏季休業中の平日練習開始時間について



n = 1050

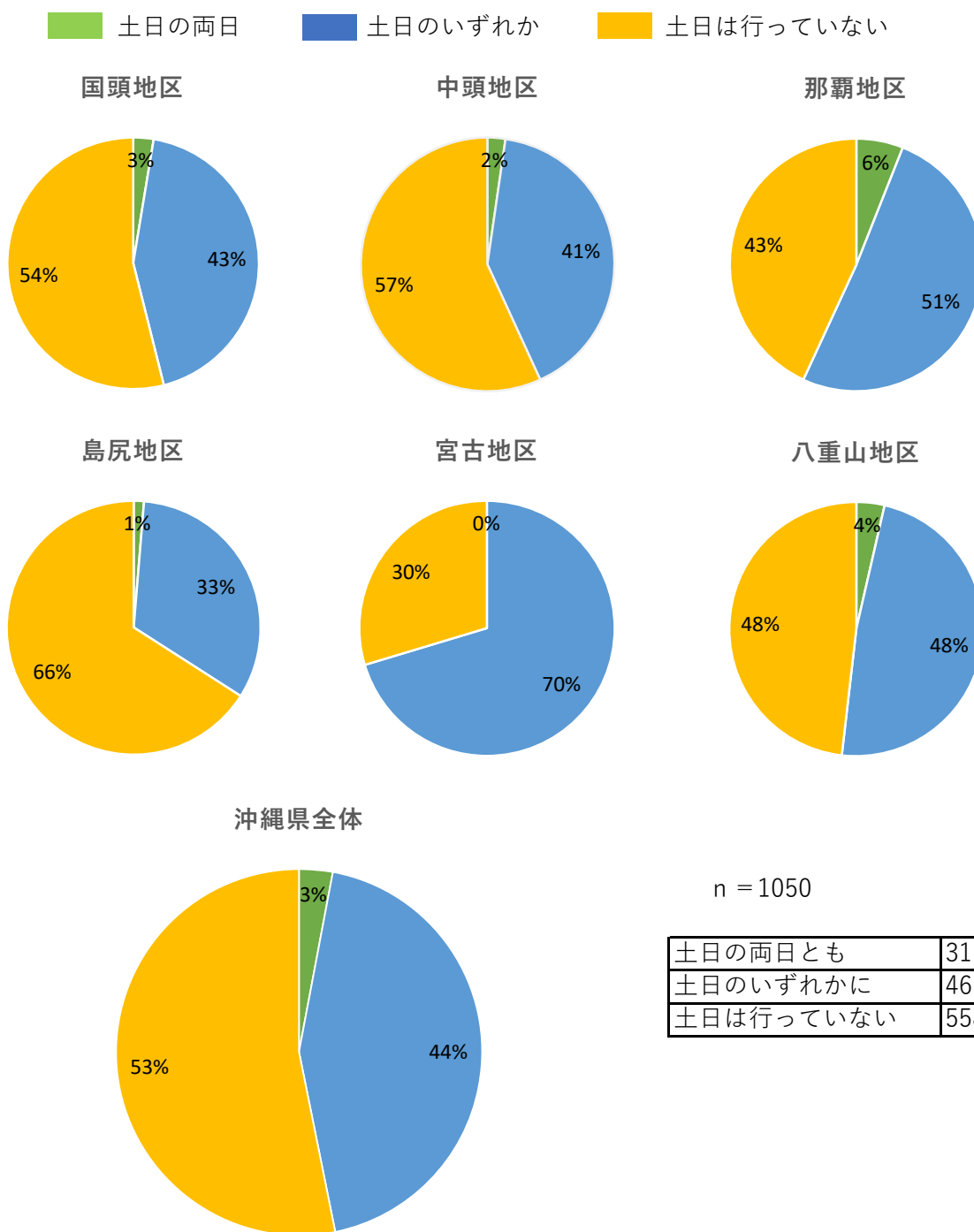
6時～	9
7時～	249
8時～	725
9時以降	67

##### 【結果・考察】

○練習開始時間については「6時～」「7時～」が25%、「8時～」69%、「9時～」6%であった。

※75%の学校が8時以降に練習を開始しており、勤務時間を考慮した時間設定となっていると考えられる。「6時～と7時～」の25%は、熱中症予防として朝の涼しい時間帯に練習を開始していることが推測される。マネージャーなどは練習開始前から準備をしており、その担当職員はそれ以前に出勤していることが考えられる。開始時間帯について課題が残る結果となった。

## 5、夏季休業中の休日練習について



### 【結果・考察】

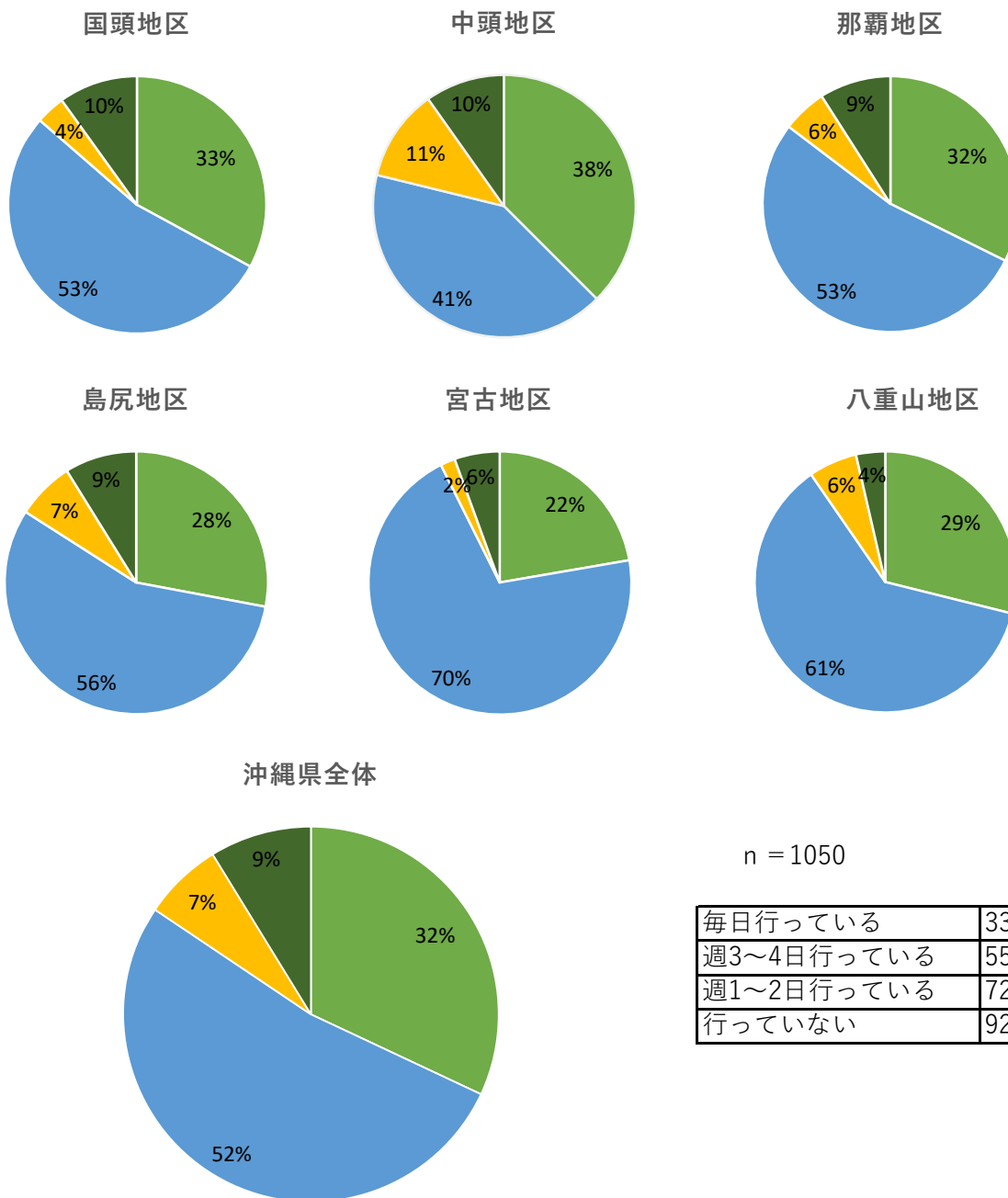
○「土日の両方」3%、「いずれか」44%、「土日はおこなっていない」が53%であった。

○夏季休業中に休日を返上して取り組んでいる学校が47%であった。

※「土日のいずれか」、「行っていない」学校が97%ではあるが、1・2年生の部活動生徒は休養日になっているのかが疑問である。陸上練習と部活動の時間調整を行わないと生徒のオーバーワークにつながり怪我の要因となりかねない。部顧問は午前は陸上、午後から部活と休日にもかかわらず長時間指導をしている状況にある。

## 6、学期スタート後の平日練習について

■ 毎日   ■ 週3～4日   ■ 週1～2日   ■ 行っていない



n = 1050

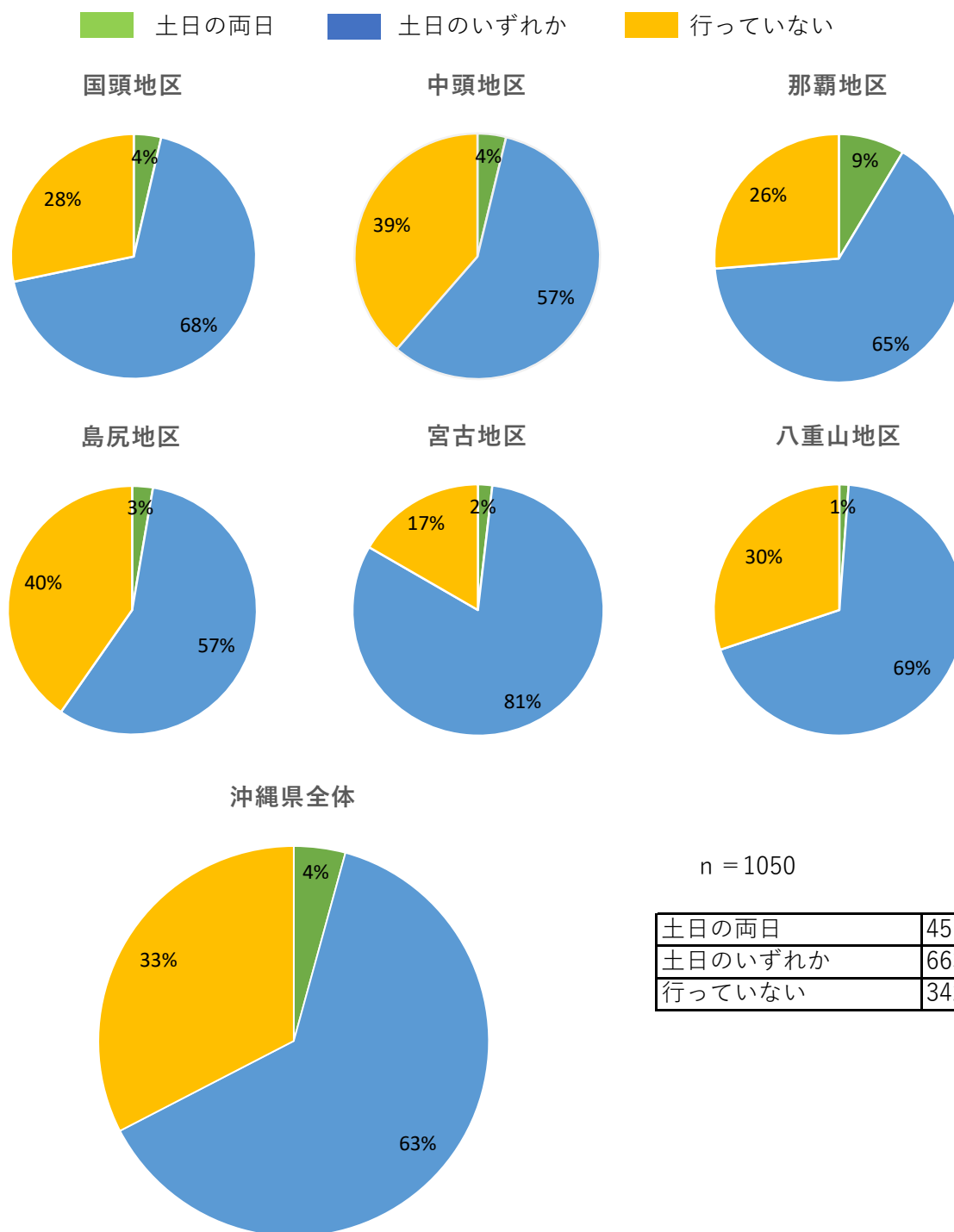
毎日行っている	336
週3～4日行っている	550
週1～2日行っている	72
行っていない	92

### 【結果・考察】

○「週3～4日」が最も多く52%、次いで「毎日」が32%であった。「週1～2日」が7%、「行っていない」が9%あった。

※休養日を設定して取り組んでいる学校が79%であるが、夏季休業中に比べ、学期スタート後は「毎日練習を行っている」が17%から32%と15%増えていることが分かる。「望ましい運動部活動」の観点から、平日の週1日は休養日を設定する必要がある。また、陸上の休養日に1・2年生は部活動に参加している状況が考えられるため、休養となっているか疑問も残る。

## 7、学期スタート後の休日練習について



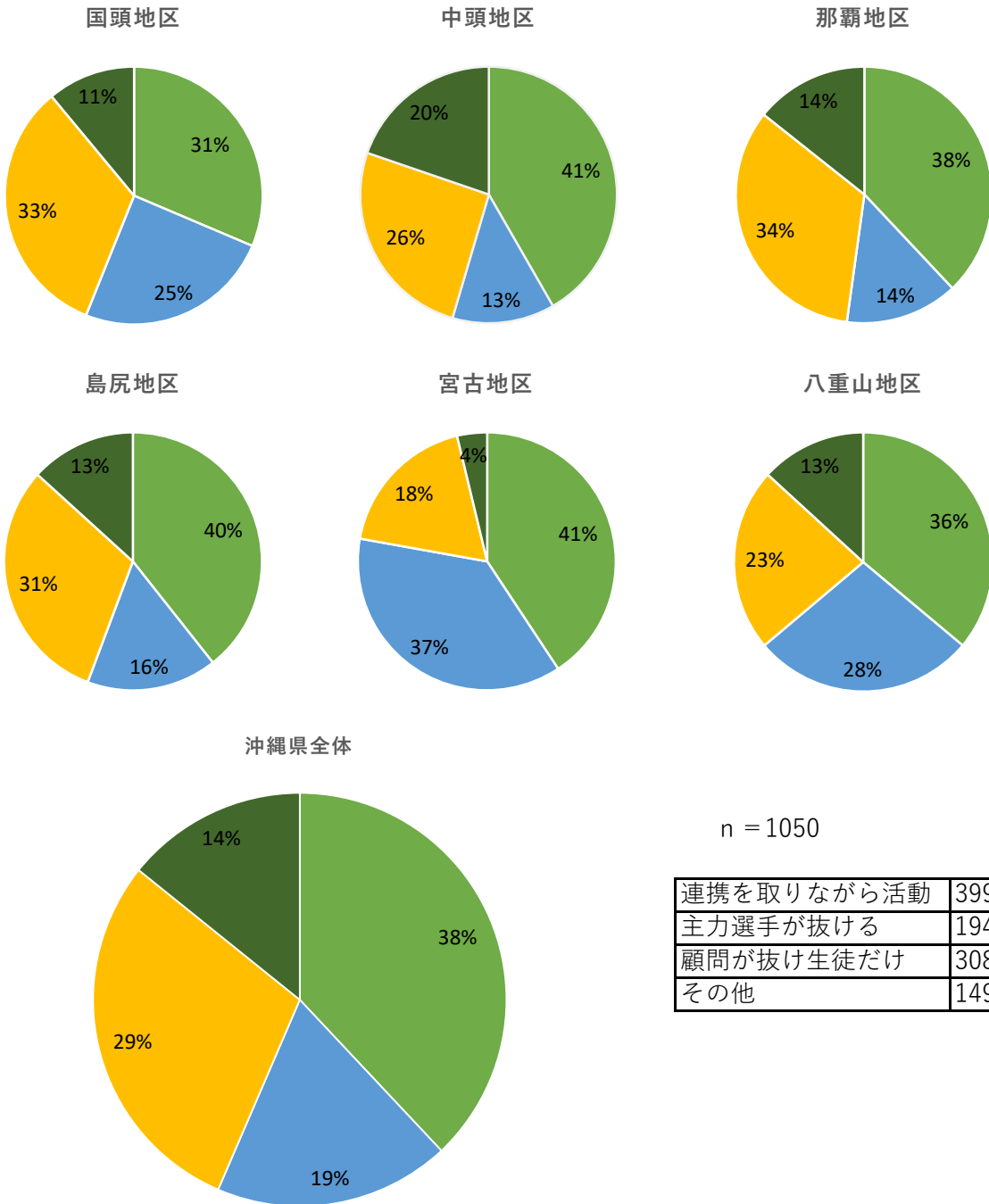
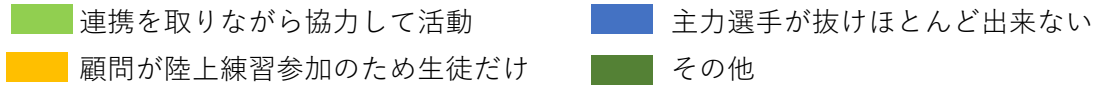
### 【結果・考察】

○「土日のいずれか」が最も多く63%であった。33%は実施しておらず、夏季休業中と同様に土日のいずれかは休養日を設けている。

※夏季休業中は「土日のいずれか」が44%であったが、学期スタート後は63%と19%増加している。土日のいずれかに陸上競技場で練習を行っていることが推測されるが、選手団の送迎等で職員の負担が多いことも考えられる。「両日行っている」も4%あるので、土日の休養日設定が必要である。



## 8、陸上の取り組み期間中、部活動との関係について



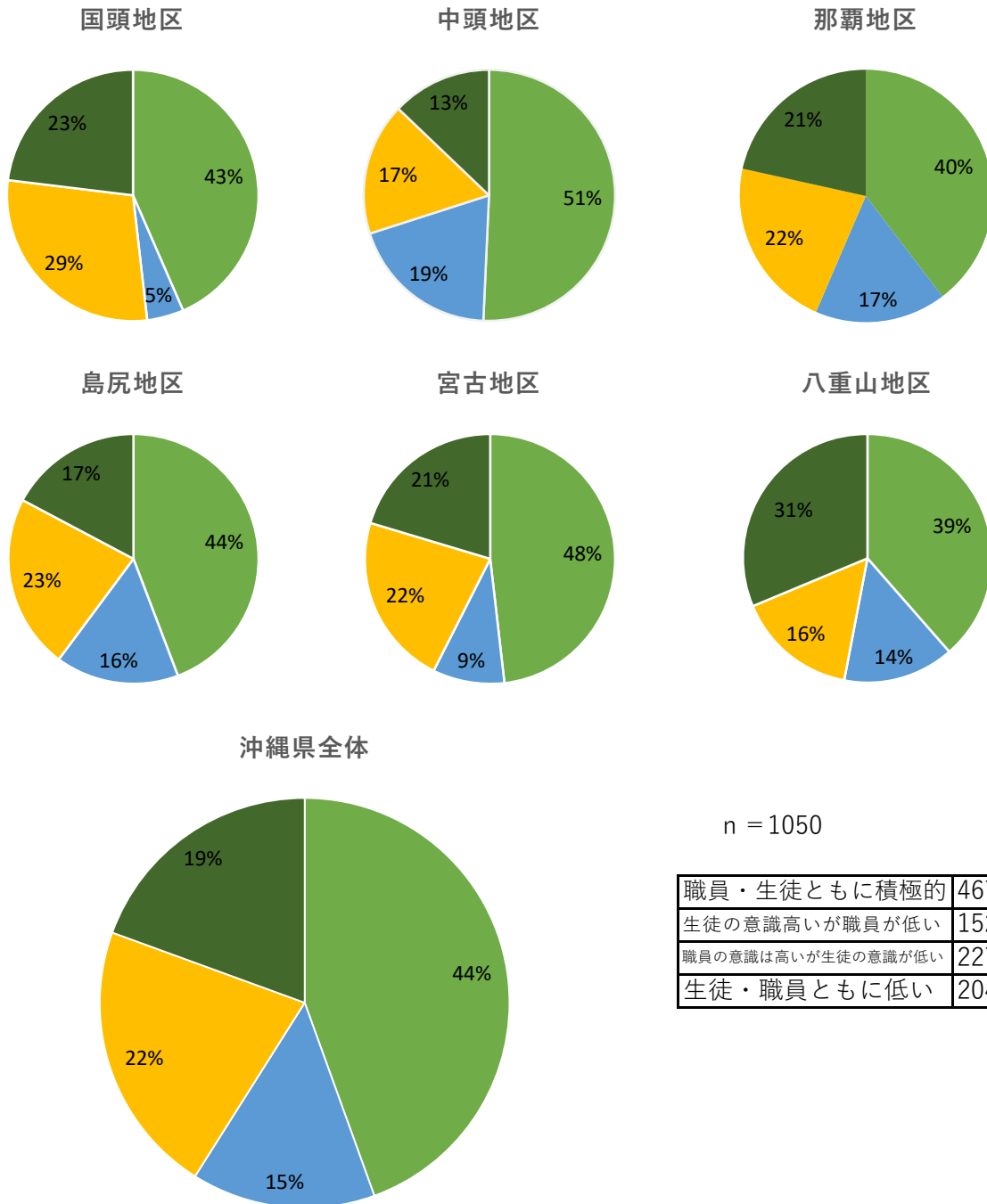
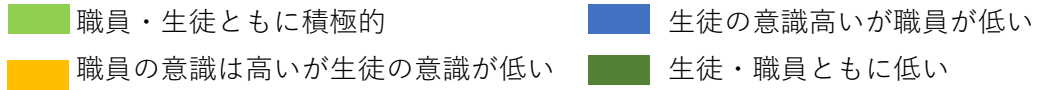
n = 1050

連携を取りながら活動	399
主力選手が抜ける	194
顧問が抜け生徒だけ	308
その他	149

### 【結果・考察】

- 連携をうまく取りながら活動できている学校は38%と全体から見ると少ない。
- 「主力選手が抜ける」「顧問が抜け生徒だけ」「その他」が62%となっている。
- ※半数以上の学校が主力の選手・指導者が居ない状況での活動となっている。部活動中の怪我や安全面の管理に課題がある。また、生徒の部活動に対する意欲の低下が懸念される。

## 9、学校の陸上の取り組み状況について



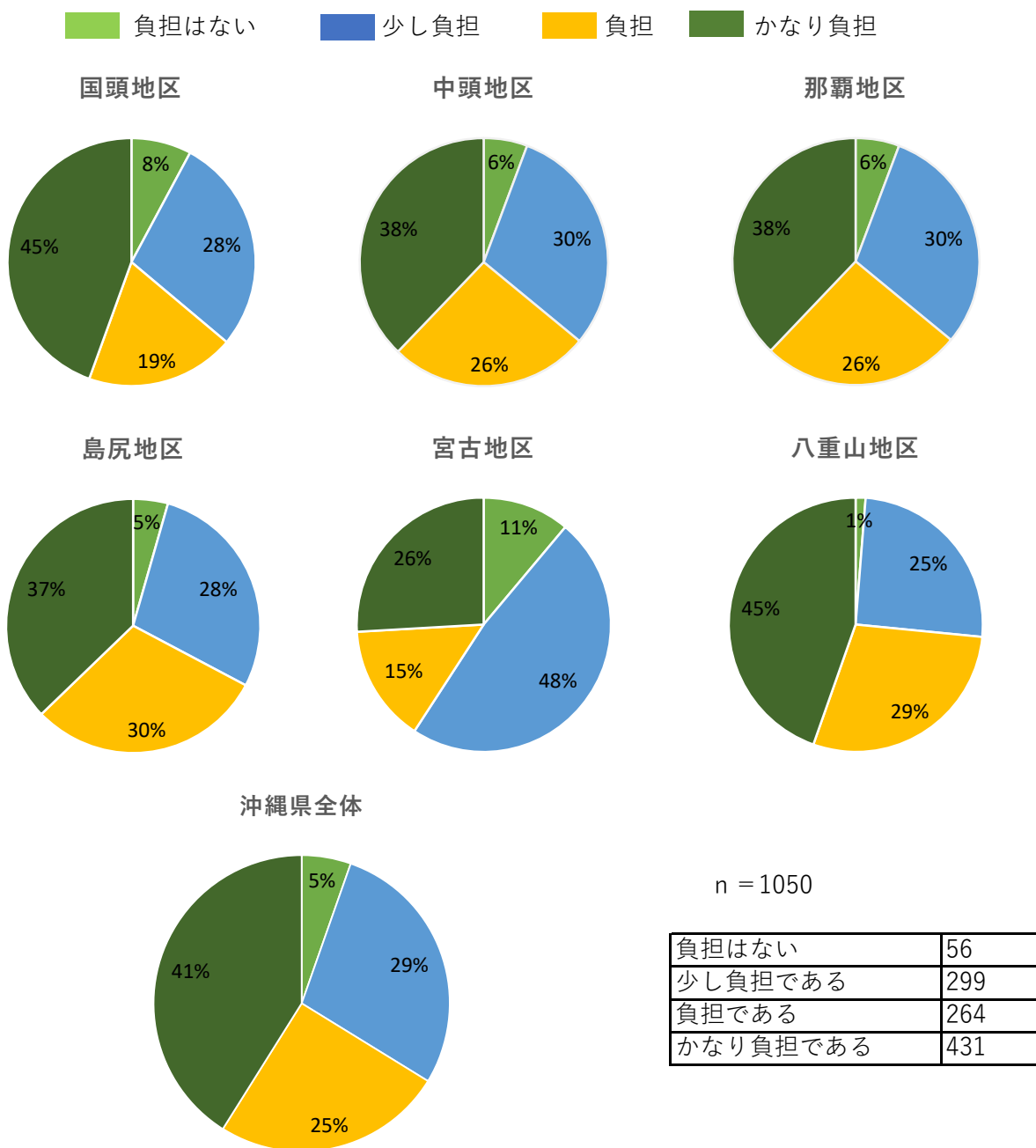
n = 1050

職員・生徒ともに積極的	467
生徒の意識高いが職員が低い	152
職員の意識は高いが生徒の意識が低い	227
生徒・職員ともに低い	204

### 【結果・考察】

- 職員・生徒ともに積極的に取り組んでいるが44%と半数を切っている状況である。
- 56%は「職員・生徒」のいずれかに取り組みに対する意識が低い状況が見られる。
- ※職員の主観に頼る回答であるが、「生徒の意欲が低い」41%、「積極的・意欲的に取り組んでいる生徒」59%と二極化にある見える。生徒に陸上の取り組みに対する意義を理解するような取り組みが必要である。また、職員に対しては66%が積極的・意欲的に取り組んでいる状況が見られる。

## 10、陸上の取り組み期間中職員の負担について



### 【結果・考察】

○全体の95%が何らかの形で負担を感じている。「負担はない」は5%であった。

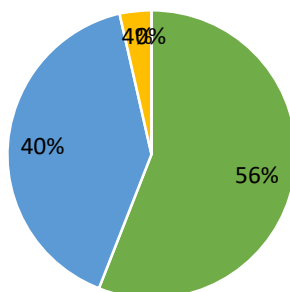
※程度の差はあるが殆どの職員が陸上の取り組みに負担を感じている状況である。記述式の内容からも特に多かったのが、「陸上と部活動の両立」「教材研究の時間」「専門外のため指導ができない」「体力的・時間的に負担」「夏季休業中なのに年休・夏季休暇が取りづらい」「全体での取り組みだが、一部の職員が担当」「取り組みに対する職場での嫌悪感」「生徒の体調面（熱中症・怪我）」など様々である。少数ではあったが、「保護者からの相談（部活動の練習が出来ない等）」また、3年生の生徒から「陸上練習に参加すると体力的に厳しく学習塾までもたない」もあった。負担なく運営することは難しいが、少しでも負担軽減につながるような運営方法の改善が必要であると考えます。

## 11、種目削減による例年の取り組みとの負担感について

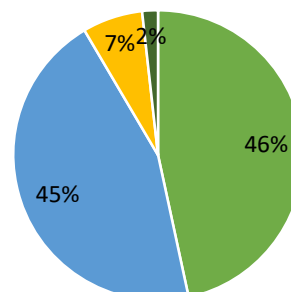


※国頭地区種目削減無し

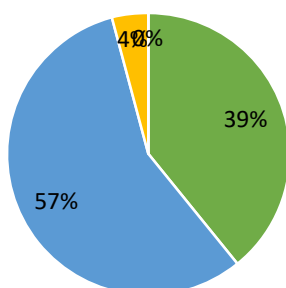
中頭地区



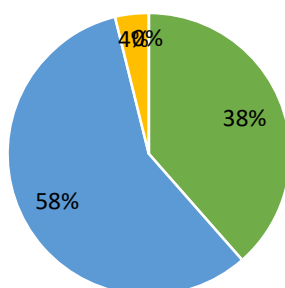
那覇地区



島地区

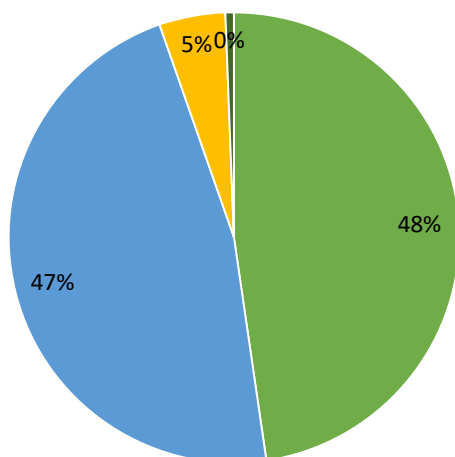


宮古地区



※八重山地区種目削減無し

沖縄県全体



n = 1050

例年と変わらない	330
例年よりある程度軽減	325
例年より大幅に軽減	33
例年より負担が多い	4

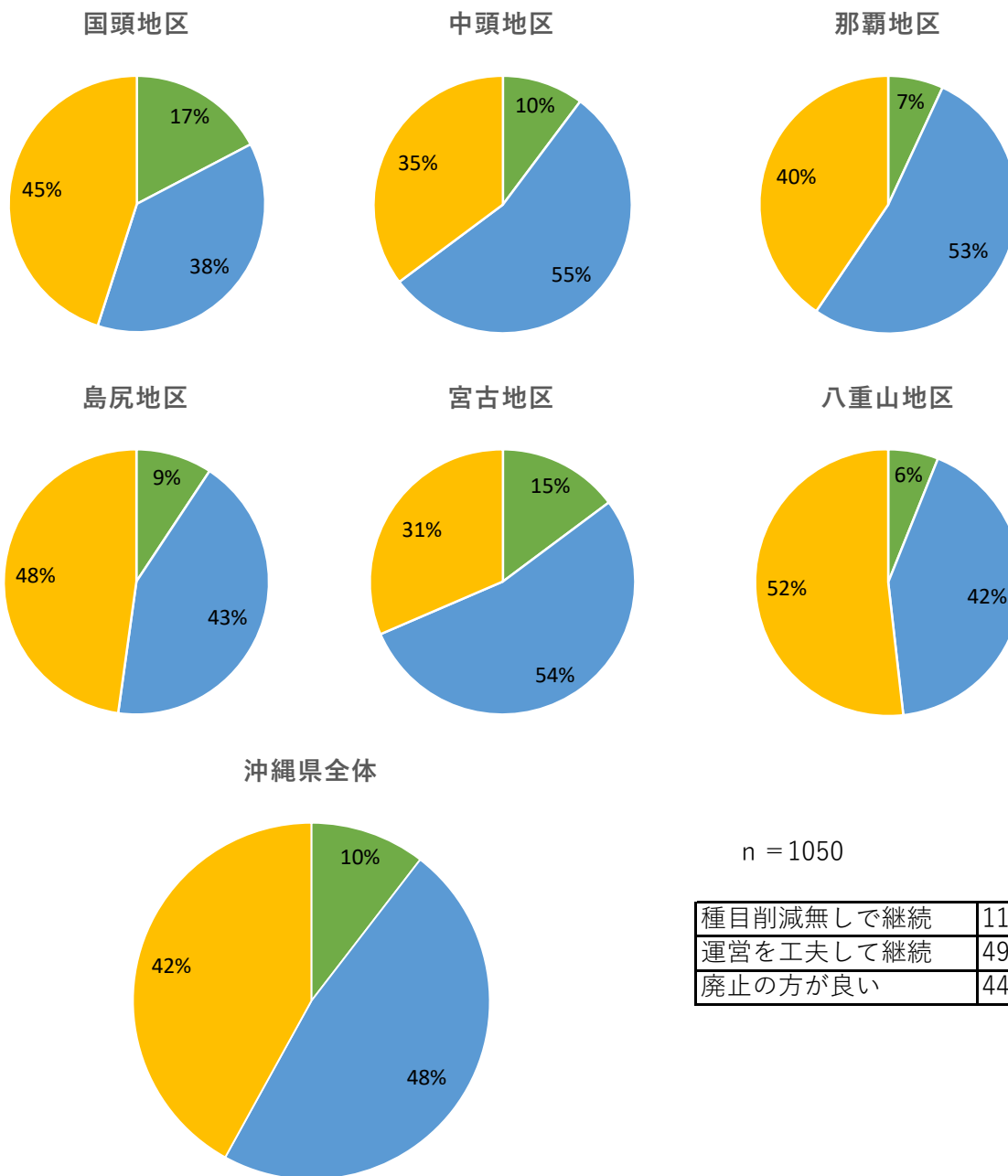
### 【結果・考察】

○「例年と変わらない」48%、「ある程度」「大幅に」52%と大差はなかった。

※今年度5種目削減した地区が4地区あったが、種目削減を行っても取り組みに対する負担感にさほど変わりがない結果となった。練習マニュアル作成や指導のポイント等、専門外の先生方でも指導が出来るような工夫・根本的な取り組み方の改革が必要であると考えます。

## 12、今後の地区陸上の在り方について

■ 種目削減無しで継続    
 ■ 運営方法を工夫して継続    
 ■ 廃止の方が良い



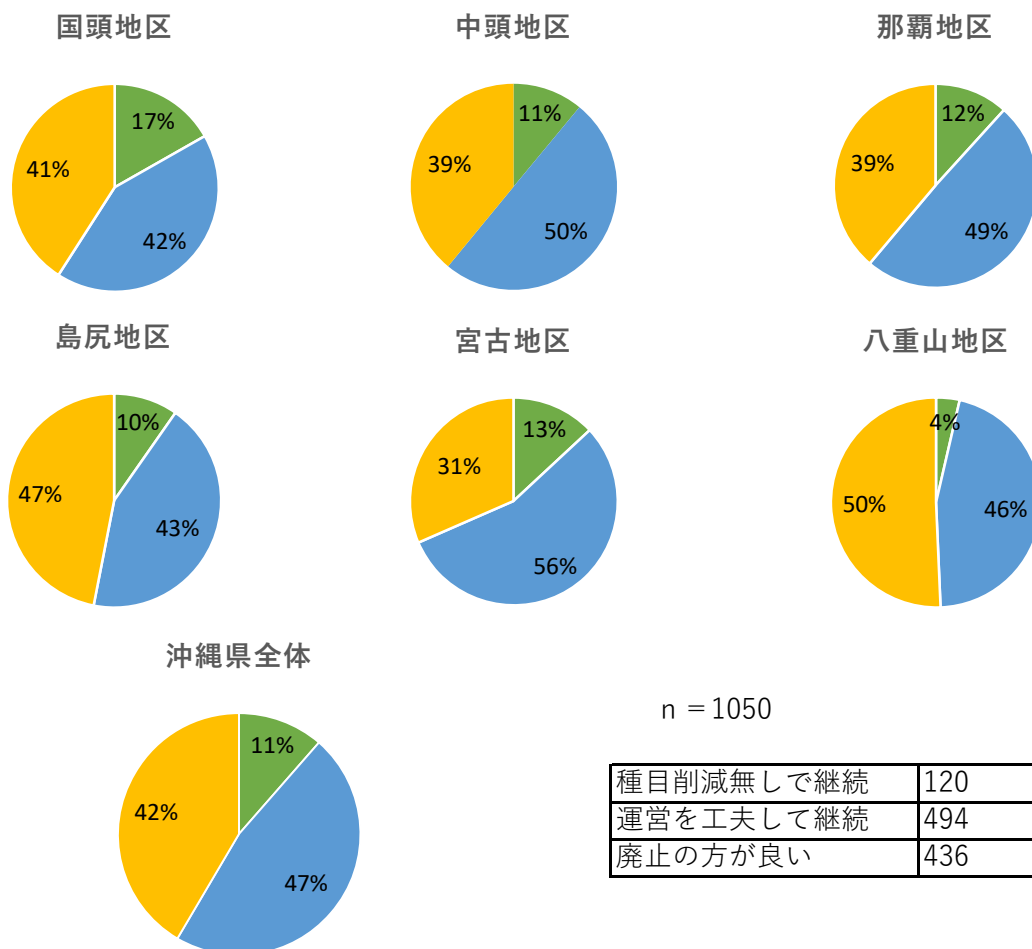
### 【結果・考察】

○「種目削減無しで継続」10%、「運営を工夫して継続」48%、「廃止」42%であった。「削減無し継続」「工夫して継続」が58%と「廃止」の回答を上回る結果となった。

※取り組みへの負担感が95%であったが、継続を望む回答が廃止を上回っている。「地区陸上を通して生徒の活躍の場」「教育効果が高い」「生徒の団結力」など肯定的な意見も多くあったが、「オープン参加」「学校対抗をなくす」「全校応援廃止」「教材研究の時間の確保」など様々な改革を求める意見もある。また、「現在の状況にそぐわない」「職員・生徒ともに疲弊している」「部活動の新体制スタートが遅れる」「生徒指導」等、厳しい意見も多くあった。

### 13、今後の県秋季陸上の在り方について

■ 種目削減無しで継続    
 ■ 運営方法を工夫して継続    
 ■ 廃止の方が良い



種目削減無しで継続	120
運営方法を工夫して継続	494
廃止の方が良い	436

#### 【結果・考察】

- 地区陸上の結果とほぼ同じ数値となった。
- ※地区陸上の取り組みは学校全体で行い、県秋季陸上に関しては担当職員と少人数で指導をしている状況が見られるが、地区陸上と同様に運営方法等の検討・改善が必要である。

#### 【まとめ】

- 今回は県中体連調査研究部として、初めて陸上競技に対するアンケートを実施した。1,050の回答者数と多くの貴重な意見を頂くことが出来た。
- 記述式の内容からは、「陸上シーズンは部活動と陸上の両方指導するため、時間的・体力的に厳しい」「熱中症予防、応援生徒の興味・関心等の観点から全校体制応援廃止」「陸上大会は陸上に興味がある生徒で参加」「生徒は部活動に専念したいのでは」「教材研究・校務分掌・生徒指導等多忙である」と様々な意見があった。
- 地区陸上の取り組みに負担を感じている職員が95%と多くいる。しかし、「廃止」よりは「継続・運営方法を工夫して継続」の意見が上回っていることから、負担は感じるが「教育的な効果が高い」「生徒の輝ける場所」「生徒の団結力」など教育的な意義や必要性の意見が多くある。
- このことから各地区状況は異なるが、アンケート内容の様々な意見を真摯に受け止め、次年度以降の地区陸上・県秋季陸上に対する練習の在り方・大会運営の工夫・改善が急務だと考える。